

華麗なるミュージカル (1938)

THE GOLDWYN FOLLIES

メディア 映画

ジャンル ミュージカル

製作国 アメリカ

時間 115分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

大プロデューサー、ゴールドウィンがジークフェルド・フォリーズにならって、映画に展開した華麗なバーレスク・ショウの世界だ。彼自身を思わせる映画製作者にマンジュウが扮し、独出身のバレリーナ=ゾリーナ主演のミュージカルを作るという骨子の中、腹話術のバーゲン（と人形のチャーリー・マッカーシー）やロシア出身のバイ・プレイヤー役のK・ベイカーを狂言廻し的に配しA・リーズとK・ベイカーの若い男女のロマンスを綴っていく、往年のミュージカルの典型パターン。滲むような発色の初期テクニカラーは、クレヨン包装のように鮮やか。当時の映画製作の裏舞台もたっぷり覗け、唄はガーシュウィン兄弟作となれば、定石から一歩も出ないマーシャルの演出にも目をつぶれるというもの。原作・脚本はB・ヘクト。ヒロイン、リーズの性格設定（ロケ現場を冷やかに来てマンジュウと出会う、業界のことなど全く知らぬアドヴァイザー、“ミス人間性”）や台詞以外は彼らしくもない仕事だが、それも許そう。芝居に入るとガックリするK・ベイカーだが、その歌声は甘やか。主題歌“Love Walked In”他、“Our Love Is Here to Stay”とガーシュウインの名曲を朗々と唄う。白眉はゾリーナの“水の精の踊り”。池から現われ、まさに水も滴る美しさ（金色の衣装が眩い）で舞い、また水に還っていく彼女にはうっとりさせられる。

【クレジット】

監督	ジョージ・マーシャル	George Marshall
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
脚本	ベン・ヘクト	Ben Hecht
撮影	グレッグ・トーランド	Gregg Toland
音楽	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	アドルフ・マンジュウ	Adolphe Menjou
	アル・リッツ	Al Ritz
	ジミー・リッツ	Jimmy Ritz
	ハリー・リッツ	Harry Ritz
	ヴェラ・ゾリーナ	
	アンドレア・リーズ	Andrea Leeds
	ケニー・ベイカー	Kenny Baker
	エドガー・バーゲン	Edgar Bergen